

平成6年度寄生虫予防指導者セミナー実施要領

JKCA
000
91.9
TIC
BRARY

21

平成 6 年度

(第 16 回)

寄生虫予防指導者セミナー
実施要領

平成 6 年 8 月

JICA LIBRARY

J 1127195 (4)

国際協力事業団
東京国際研修センター

目 次

	頁
1. コー ス 名 等	1
2. コー スの背景・目的	1
3. 到 達 目 標	2
4. 研 修 方 法 ・ 研 修 項 目	2
5. 研 修 員 参 加 資 格 要 件	4
6. 研 修 実 施 体 制 及 び 運 営	4
7. 研 修 ・ 宿 泊 施 設 等	5
8. 研 修 教 材 ・ 資 機 材	5
9. 研 修 付 帯 プ ロ グ ラ ム	5
10. 研 修 の 評 価	6
付表-1 平成6年度寄生虫予防指導者セミナー日程(案)	7
付表-2 国別研修員参加実績	9

1. コース名等

(1) コース名

○和 文 名： 寄生虫予防指導者セミナー

○英 文 名： Seminar on Parasite Control Administration for
Senior Officers

— A Step Towards Primary Health Care —

(2) 研修期間

平成7年1月24日（火）～平成7年2月19日（日）

(3) 定 員

10名

2. コースの背景・目的

(1) コースの背景

わが国における寄生虫対策は、とくに第2次大戦後、行政、学者グループ、民間団体が国民の支持と協力を基盤に三位一体の運動を展開し、回虫等の感染率ほぼ0%を達成するなど、世界に類をみない成功の経験をもっている。

しかし、現在多くの開発途上国ではさまざまな種類の寄生虫による疾患が、国民の健康を阻害する原因となっており、なかでも回虫や鉤虫などのいわゆる土壌伝播寄生虫（以下これを寄生虫という）は、その感染の度合いが非常に高率であるにも拘らず、これまで各国政府による効果的な防治対策はほとんどなされていないのが現状である。

上記の寄生虫予防についての日本の諸経験を多くの開発途上国に伝え、その実践を促がすことがのぞまれている。

(2) コースの目的

本セミナーは開発途上国の上級行政官等に対し、総合地域保健計画の達成にあたり、実際の戦略としての寄生虫予防（主として土壌伝播寄生虫の予防）をいかに効果的に推進させるかにつき、以下の討論を通じて知識と理解を深めさせることを目的とする。



1127195【4】

1. 参加研修員の自国における寄生虫予防計画の現状と計画実施における問題点の紹介及び理解
2. プライマリー・ヘルスケアの達成という目的の中での寄生虫予防対策の意義と役割
3. 家族計画あるいは家庭保健との統合における寄生虫予防の効果的な実施方法

(3) 設立年度及び経緯

本セミナーは昭和54年度に設立され本年度で16回目を数える。過去15年間の研修参加者は147名（個別のオブザーバー含む）にのぼり、セミナーでの成果を生かしつつそれぞれ自国の保健衛生部門で活躍している。（付表－2 研修員参加実績参照。）

3. 到達目標

本セミナーは寄生虫予防を標題とし、その内容も寄生虫予防における日本の過去から現在にいたる官・学・民一体となつての活動経験を伝えることに焦点をあてたものであるが、副題を“A Step Towards Primary Health Care（プライマリー・ヘルスケアー実現への第一歩）”としたことから判るとおり、単に寄生虫予防活動のテクニックだけに止まらず、寄生虫予防を突破口として、将来、各国住民の自主的参加を前提とした地域保健衛生活動展開のための手がかりを与えることにある。

4. 研修方法・研修項目

(1) 研修方法

- 1) 東京 : 寄生虫学講義をはじめとする日本側のプレゼンテーションや研修員各国の現状紹介等を行い、各国における寄生虫予防の現状を参加者自身に把握せしめ、さらにトピック・ディスカッション等を通じて寄生虫予防プログラムの有用性を認識せしめると共に各国における効果的な実施方法の方途をさぐる。
- 2) 研修旅行 : 寄生虫予防におけるわが国の実践経験につき各地の状況を見聞し、最も重要な要素となっている住民参加の実際を学び、さらに人々とのふれあいを通じて日本についての理解を深める。

(2) 研修項目

研修項目は付表－１の平成６年度セミナー日程（案）を参照。

（３）カントリー・レポート

カントリー・レポートは参加研修員の国々の寄生虫予防運動を紹介するために研修員があらかじめ用意してくるものであるが、下記の事項を網羅するものとする。

1. 回虫，鉤虫，べん虫及びその他の主な寄生虫の蔓延状況とそれら寄生虫に対する人々の意識など一般的な背景について
2. 政府の保健，特に寄生虫予防に対する政策について，また現在自国内で実施している寄生虫予防プログラムについて
3. 保健問題に対する社会保障について
4. 保健行政の組織及び他の公的または民間組織との連携体制について
5. 小学校から大学までの教育システム及び小学生等に対する保健教育について
6. 医療従事者の養成システムについて
7. 寄生虫予防プログラムについて
 - － 全般的な概要
 - － 組織図
 - － プログラムに従事する職員の内訳
 - － プログラム従事者に対するトレーニング
 - － プログラム実施に於いて実際に利用または協力可能な施設及び機関等
 - － 寄生虫卵検査の方法
 - － 駆虫の方法（集団駆虫，個人的な駆虫等）
 - － 駆虫薬の種類，１人当りの価格等
8. プログラム実施に於ける自助努力について
 - － 検査料，駆虫代等
 - － 地域住民の自発的な協力の有無
 - － その他の自助努力
9. 当面の問題点及びプログラム実施上での困難な点
10. 寄生虫予防に関連したその他の公衆衛生や保健活動について
11. プライマリー・ヘルスケアに対する将来の見通しについて

5. 研修員参加資格要件

(1) General Information (以下「G・I」と言う)に記載している参加研修員の資格要件は下記の通りである。

(イ) 当該政府より推薦を受け、在外日本大使館経由で要請書(A3フォーム)を応募締切日までに提出した者

応募締切日 平成6年11月24日(木)

(ロ) 中央政府または地方レベルで寄生虫予防を担当する上級の行政官もしくは専門家であること

(ハ) 保健医療その他関連した業務に就いている者

(ニ) 55才以下の者

(ホ) 英語の読解力、会話力に十分な者

(ヘ) セミナーを受けるに心身共に健康な者(ただし妊婦の応募は不可)

(ト) 軍籍にないこと。

(2) 人選の方法及び選考基準

参加割当国に対しては在外日本大使館を経由して本コースのG・Iが配布されている。本G・Iに基づき相手国政府から提出される要請書により、G・I記載資格要件を主たる選考基準として、国際協力事業団と(財)日本寄生虫予防会の協議により人選を行なう。

(3) 割当国

ブータン、フィリピン、タイ、ブラジル、グアテマラ、パラグアイ、

ペルー、ラオス、フィジー、エチオピア、ガーナ、ケニア、中央アフリカ

以上13ヶ国

6. 研修実施体制及び運営

国際協力事業団は(財)日本寄生虫予防会との間に研修委託契約を結び、その契約に基づき、(財)日本寄生虫予防会は国際協力事業団との緊密な連絡と協議のもとに研修を運営する。

また、本セミナーには研修業務を円滑かつ効率的に遂行すべく、業務調整さらには必

要に応じ通訳業務を兼ねた研修監理員が、国際協力事業団によって配置される。

7. 研修・宿泊施設等

(1) 研修先

財団法人 日本寄生虫予防会
〒162 東京都新宿区市ヶ谷砂土原町1丁目1番地
保健会館内
電話(03)3268-1800 (代)
Fax. (03)3266-8767

(2) 宿泊施設

国際協力事業団 東京国際研修センター (TIC)
〒151 東京都渋谷区西原2丁目49番5号
電話(03)3485-7051 (代)
Fax. (03)3485-7904

8. 研修教材・資機材

- (1) Parasite Control in Japan 等寄生虫予防に関する諸資料
- (2) Color Atlas of Human Helminth Eggs
- (3) 16m/m Film 「Ascaris」, 「Hookworm」, 「Public Health in Japan」
- (4) 寄生虫検査用資機材
- (5) その他講師の用意する資料

9. 研修付帯プログラム

国際協力事業団は、平成7年1月24日(火)を参加研修員の来日指定日とし、翌日東京国際研修センターにおいて、来日に伴う事務諸手続及び滞在費等の支給に係る集合ブリーフィングを実施する。

国際協力事業団 東京国際研修センター（T I C）

〒151 東京都渋谷区西原 2 丁目49番 5 号

電話(03)3485-7051（代）

Fax. (03)3485-7904

又、日本到着後、直ちに研修に入るよりも、日本に慣れる期間を設けるほうがより効率が高まるという考えのもとに、日本を知るための3日間のジェネラル・オリエンテーション・プログラムが、T I Cにおいて実施される。その内容は以下のとおりである。

- (1) 日本の社会と風土
- (2) 日本の文化と歴史
- (3) 日本の経済
- (4) 日本の教育制度
- (5) バスによる都内見学

10. 研修の評価

(1) 評価の目的

本コースの実施・運営状況を把握するとともに、研修成果を測定する。また、研修員の要望を聴取すると同時に、コース実施上の問題点を明らかにしそれらの分析検討を通じ、次年度以降のコースの質的向上を目指す。

(2) 評価方法

コース終了時に、国際協力事業団所定の様式による“Questionnaire for Future Programmes”及びそのSupplementの回答を研修員に提出させ、研修内容に対する研修員の理解度及び要望などを把握する。また、国際協力事業団関係者、研修受託機関関係者及び研修監理員出席のもとに「評価会」を設け、上記様式を中心に研修員と意見交換を行う。

更にこのような評価方法を踏まえ、コース終了後国際協力事業団並びに各研修受託機関による「反省会」を設け、総括的な評価を行う。

付表 - 1 平成6年度寄生虫予防指導者セミナー日程 (案)

月 日	午前の部 9:30~12:00	午後の部 14:00~17:00
平成7年 1/24 (火)	参 加 者 来 日	
1/25 (水)	集合ブリーフィング (於, JICA・TIC)	同 左
1/26 (木)	ジェネラル・オリエンテーション (於, JICA・TIC)	同 左
1/27 (金)	ジェネラル・オリエンテーション (於, JICA・TIC)	同 左
1/28 (土)	ジェネラル・オリエンテーション (於, JICA・TIC)	
1/29 (日)	休 日	
1/30 (月)	開講式 議 長 : 林 滋生 歓迎挨拶 : 須川 豊 : 厚生省 : JICA 参加者紹介 ブリーフィング: 林 滋生 プログラム・オリエンテーション	日本における寄生虫予防活動 行政 : 厚生省 学会 : 林 滋生 民間 : 国井 長次郎 討論者:
1/31 (火)	カントリー・レポート発表 討論者:	カントリー・レポート発表 討論者:
2/1 (水)	カントリー・レポート発表 討論者:	カントリー・レポート発表 討論者:
2/2 (木)	寄生虫学 総 論 : 林 滋生 映 画 : 回虫	寄生虫学 回 虫 : 小林 昭夫 鉤 虫 : 安羅岡一男
2/3 (金)	寄生虫学 治療・駆虫 : 横川 宗雄 映 画 : 鉤虫の生態	寄生虫学 検査法 : 影井 昇 トレーニング: 鈴木 了司
2/4 (土)	集団寄生虫予防:	

月 日	午前の部 9:30~12:00	午後の部 14:00~17:00
2/5 (日)	休 日	
2/6 (月) ↓ 2/12 (日)	研修旅行 — 地方における保健活動及び寄生虫予防 —	
2/13 (月)	研修旅行総括討論	講義「日本の公衆衛生活動」
2/14 (火)	見学・実習：東京都予防医学協会	同 左
2/15 (水)	見学・実習：(株)目黒寄生虫館	見学：国立予防衛生研究所
2/16 (木)	講義「国際医療協力」：JICA	講義・討論「インテグレーション —理論と戦略— ：国井長次郎
2/17 (金)	総括討論「寄生虫予防実施に ついて」	15:30~(予定) 評価会(TIC) 17:00~(予定) 閉講式(TIC)
2/18 (土)	帰国準備	
2/19 (日)	帰 国	

付表-2 国 別 研 修 員 参 加 実 績

国 名 年 度	バングラデシュ	ブータン	カンボディア	インド	インドネシア	大韓民国	マレーシア	ネパール	フィリピン	スリ・ランカ	パキスタン	タイ	中国	イラク	サウジアラビア	エジプト	リベリア	中央アフリカ	エチオピア	ケニア	タンザニア	ナイジェリア	ブラジル	チリ	パラグアイ	コロンビア	グアテマラ	メキシコ	コスタリカ	ニカラグア	ジャマイカ	計	
昭和54	1			1	1	1	1			1		1													1	1						9	
55							1	2							1								2	1		1	1					9	
56	1				1		1			1		1											1		1	1						8	
57	1				1		1					1	1	1									2				1					9	
58				1	*1		1		1			1	1	1		1									1	1						10	
59					1				1			1		1		1						1			1							8	
60					1					1		2				1	1	1	1				1									10	
61					1			2								1		1				2		1								11	
62					1		1	1	1	1						1		1				1	1	1	1	1						12	
63							1	1	1	1	1	2	1			1		1				2			1	1						13	
平成元					1		1	1				1	1			1		1				2			1	1						11	
2			1		1				1			1										1	1				1					8	
3					2		1					1										2				1	1						10
4			1				1		1			1								1	1		1					1				10	
5	1	1	1		1		1		1			1										1	1		1							11	
計	3	1	3	2	13	1	8	6	9	4	1	14	4	3	1	7	1	6	2	1	8	3	18	1	4	7	6	4	2	3	1	147	

(* 昭和58年度インドネシア国研修員は途中帰国)

